

シンポジウム

沖縄の自然と人の暮らし

～名護市東海岸を事例に～

日時：2016年7月9日(土) 13:30～17:00
場所：BC 鶯谷貸し会議室（JR 鶯谷駅 徒歩3分）
主催：日本自然保護協会（NACS-J） 入場料：無料、事前申し込み
※当日参加もお待ちしておりますが、資料用意の都合上、事前にご登録いただけますと幸いです。



米軍基地建設でゆれる沖縄島東海岸。

ここには、絶滅危惧種であるジュゴンがすみ、新種や希少種が数多く発見される生物多様性の高いサンゴ礁が広がっています。

人々も、この多様な環境をうまく利用し、暮らしてきました。

今回のシンポジウムでは、人と自然とがどのように関わり暮らしてきたのかに焦点をあてます。

辺野古の埋め立てが進んだ場合に何が失われるのか、私たちはどのように自然と付き合いながら暮らしていくべきか、じっくりと考えます。

*このシンポジウムは公益財団法人自然保護助成基金第26期(2015年度)プロ・ナトゥーラ・ファンド助成によって実施しています。

<スピーカー>

- 辺野古・大浦地域における「場」の多様性の重要性
～地理学からの視点～ 中井達郎（国士舘大学・地理学）
- 海辺のくらしと自然とのつきあい方 ～沖縄県・嘉陽の住民と
変動する海岸～ 保屋野初子（環境ジャーナリスト・星槎大学）
- ジュゴンの海に抱かれて～大浦湾沿岸地域の暮らしと基地建設～
浦島悦子（フリーライター）
（うらしまえつこ・鹿児島県出身。1990年より沖縄在住。著書『やんばるに暮らす』『シマが揺れる』『みるく世やがて 沖縄・名護からの発信』など）
- 世界に誇る辺野古・大浦湾の海 安部真理子（日本自然保護協会）
- パネルディスカッション
コーディネイター・辻村千尋（日本自然保護協会）

会場：BC 鶯谷貸し会議室
台東区根岸 2-1-2 大塚ビル4階

お問合せ・申込先：
日本自然保護協会（担当 萩原・辻村）
umi@nacsj.or.jp 03-3553-4103

